

ひがしき

東木ひさよ

おれんじ通信 第27号



すべての市民に安心と快適さを！

今後の課題である高齢者の「移動支援」。そして、増加が予想される「外国人の子どもと家族の支援」。9月議会では、すべての市民が便利に安心して暮らせるまちづくりの提案を行いました。

提案しました！

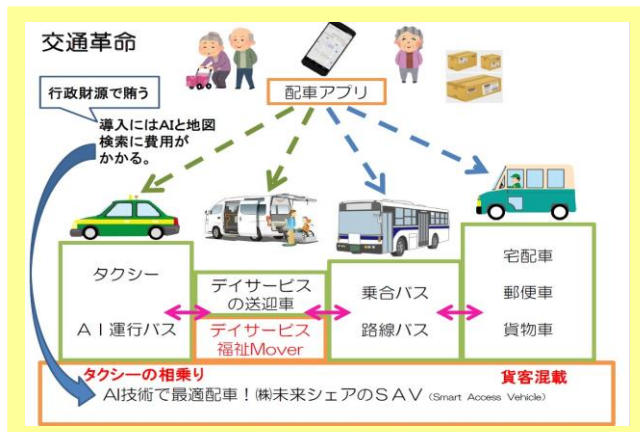
スマホ・タブレット・AI 技術を活用した 移動・交通の新たなサービス導入を！

民間の介護送迎車の「シェアリング」。

藤沢市では、75歳以上の高齢者が現在の54,600人から2025年には約7万人へと増加します。高齢者の交通事故がクローズアップされる中、**運転免許返納後の暮らしを支える、新たな移動手段の確保**が大きな課題です。

バス会社やタクシー会社も人手不足。特に市内西北部など、バス路線も少ない交通空白地域です。

そこで、**民間の介護事業所のデイサービスの車**を活用し、スマホアプリとAI(人工知能)の連動で「ドア to ドア」の気軽に外出できるサービスの導入を提案しました。



※スマホひとつで行きたいところへ。



今回提案したのは、他の県の介護事業所が開発した「福祉ムーバー」です。あらかじめスマホのアプリを保存し、乗る場所と行きたい場所を登録すると、空いている車が自宅まで迎えに来てくれます。到着時間も自動で知らせてくれるので、とても便利です。

スーパーマーケットや病院の行き帰り、お孫さんやお子さんたちに会いに行く時も気軽に頼めるので、外へ出かける楽しみが増えそうです。

提案しました！

外国にルーツを持つ子どもや市民にも、
やさしく住みやすいまちづくりを！

日本語教育の手厚い支援を。

全国で日本語指導の必要な児童生徒は、この10年で1.8倍に増加。藤沢市も同様で、現在、日本語指導が必要な児童生徒は154名。9つの言語に広がっています。そこで、①子どもの

日本語言語能力のチェック、②日本語指導の時間数の増加、③家庭状況も記載したファイルの作成や④コーディネーターの配置など、日本語教育の入口から進捗のチェック、卒業までを長期でサポートする一貫したシステムの構築を提案。一人残らず日本語を習得し、大きく羽ばたけますように。また、児童だけでなく、保護者への対応も大切です。行政や地域も一体となってサポートし、家族全員が地域に定着できるよう、「温かな多文化地域共生社会の推進」を要望しました。



提案中です！

災害に強い、安心して暮らせる街へ。

台風に備えて万全な対策を。

今年は台風15号・19号で甚大な被害がありました。停電・断水も多かったです。スマホの充電もできず、情報が届かない場合もありました。そこで、電力・通信・



交通事業者・レディオ湘南と連携し、「災害時の情報発信体制の強化」と「防災ラジオの普及拡大」を要望。さらに「電線類地中化の促進」を。また、断水時のトイレも課題です。「携帯用」から「マンホールトイレ」まで多様なトイレの整備をすすめる「災害時トイレ計画」の策定を提案しています。

ひがしき

東木ひさよプロフィール

Facebook →



藤沢市議会議員3期。北海道旭川市出身、北海道立旭川東高、明治学院大学卒。R元年度、議会運営委員会委員、厚生環境常任委員会委員、災害対策等特別委員会副委員長

(H25、26年度厚生環境常任委員会副委員長、H27、H29年度子ども文教常任委員会委員長、H28年度総務常任委員会副委員長、H30年度建設経済常任委員会副委員長等を歴任)

東木ひさよ
ホームページ



<http://higashiki.com>

QRコードは
こちら →



&



(0466)88-1125



hisayo2011@yahoo.co.jp